

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200830		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名(ユニット名)	グループホームのぞみ		
所在地	和歌山県岩出市山591		
自己評価作成日	令和5年4月9日	評価結果市町村受理日	令和5年7月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和5年5月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念「誰もが利用したいグループホームを目指します」を目標に、ご利用者に寄り添えるケアを実践し家庭的な雰囲気大切にしています。ご利用者一人ひとりがグループホームでその人らしく、楽しみのある生活を送って頂けるように取り組んでいます。ご利用者一人ひとりの体調面、リスク管理について職員間で常に共有しながら、またミーティングやケース会議を通じて話し合い職員一丸となり取り組んでいます。事業所内でご利用者への楽しみの提供して季節の行事やご利用者個々への役割、また機能低下防止の為のリハビリ体操の実施を行い、グループホームで生き生きとした生活を送って頂けるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本人を中心に楽しめることを家族も含めてみんなで取り組みたい、そんな思いを職員全員が共有されています。「誰もが利用したいグループホームを目指します」と理念にあるように、グループホームらしいグループホーム、グループホームの良さを、みんなが一つのチームとなって、追求していきたい、広めていきたいと、スクラムを組んでおられます。一方、利用者一人ひとりの体調面等も把握され、個々にきめ細やかな対応がされています。忙しい中でも、笑顔で過ごされている職員の顔がとても印象に残りました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の独自の理念を作成し、ミーティング時や日々の業務の中でご利用者個々にとって何が大切かを話合う機会を持ち、理念を共有し実践に繋げている	理念は、地域に中の一員という思いを軸に考えられ、ホールの壁に掲げており、毎朝の申し送り時に職員で唱和している。一度見直しが行われ、短くわかりやすい要約にした経緯がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域との交流は繋がっているが、新型コロナウイルス感染防止の為地域の活動には参加できていないが、ご近所への挨拶等地域との交流の大切さを職員間で意識している	コロナ禍以前は、中学生の職場体験を受け入れることもあったが、渦中では回覧板通信等を通して地域とつながってきた。今後は、地域行事に積極的に参加して行くことが利用者の希望でもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策で運営推進会議の文書開催を行っている中、法人4事業所で作成している通信を地域での回覧して頂き、認知症の理解等深めて頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策で運営推進会議の開催はできておらず、活動内容、利用者の状況等を文書にて報告させて頂き、定期的に参加者の方に質問等をお聞きしている	以前は、家族、区長、民生委員、市の職員、包括等の参加で行っており、意見を基に介護教室を行ったりもした。現在は開催できておらず、文書での報告となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、事業所取り組み内容を伝え、日頃から相談するようにしている。認知症キャラバンメイトも登録している。	市町村の担当者とは法改正等の際には、詳しい情報を教えていただいたり、包括の担当者とは認知症キャラバンメイトを通じて協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回事業所内で研修会を行っている。日頃の業務の中でも身体拘束の行為も含め不適切なケアについても話し合いを持っている。	身体拘束適正化委員会については年二回行っている。施錠は防犯のため行っているが、利用者の外に行きたい希望があれば、可能な限り対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン研修で虐待防止について学び、ミーティング時等に虐待防止含め不適切なケアに繋がらないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護事業等を利用されている方はいないが、今後のことも考え学ぶ機会を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご利用者とご家族から不安や質問等をお聞きしながら、重要事項説明をもとに十分に説明すようにし、理解を得て頂けるようしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご利用者とご家族との信頼関係を築けるように、意見や要望に耳を傾け支援に反映できるよう取り組んでいる。感染対策で面会を制限している中、電話や来居時には思いや要望を聞かせて頂いている。	コロナ禍にあっても、家族の要望に応え、面会の方法もオンラインであったり、窓越し面会であったり、感染状況を見極めながら、工夫してされている。また、本人の様子がわかる写真をお渡しすることもあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や業務の中で、職員が意見しやすい取り組んでいる。また日頃の様子を見て問いかけりうようにも努めている。	職員とのかかわりの中で、些細なことでも話しあえる関係性があり、意見しやすい機会を設けている。定期的に個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い職員個々に面談を行い、個々の能力を評価し、希望ややりたいことを活かし、やりがいを持てるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修と事業所内研修を開催できる機会を持ち、職員個々に向上できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流は図れていないが、法人内でのグループホーム間で認知症合同研修を開催し共にサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人の状態の把握やご本人の不安や悩み等を聞き取り、安心して過ごして頂けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より見学等来て頂いた時に、ご家族の悩みや困っている事を聞き取り、入居後どのように支援させて頂くか一緒に考えさせて頂き信頼関係を築けるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の思いや状況を把握し必要とされていることを見極め、その時にあったサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を大切に、ご利用者個々にその人らしく安心して頂けるように声かけを行っている。また食事作りやレクリエーションを通じて共に過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来居時や電話連絡時に状況をお伝えし、また毎月のお便りを通じて生活状況をお伝えさせて頂き、情報の共有を行っている。また何かあった時には相談しながら共に支えていくよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染対策の為控えているが、馴染みの美容室や散歩コースに出かけられるようご家族にも協力して頂きながら取り組んでいた。	家族の協力もあり、馴染みの美容室へ行ったり、墓参りに行くなど馴染みの場所との関係性があった。コロナ禍では、電話や手紙のやり取りできる支援を継続してきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係や会話からお互い良好な関係が継続できるように工夫し、孤立せずに関われるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の暮らしぶりや状態等を伝え情報交換を行っている。転居後も必要に応じて情報交換を行い関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族に今までの生活の状況を聞き意向の把握に努め、また日々の言動や行動から思いを汲み取るようにしてその人らしく生活できるよう取り組んでいる。	入居時には、家族や今までの担当ケアマネジャー、事業所に様子を聞き、サマリーや基本情報を基にアセスメントにつなげた。又、現状を把握する中で申し送りノートなどを活用し情報交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご家族、担当ケアマネジャーさんから情報を得るようにし、入居時にセンター方式を活用し、ご家族に記入して頂き暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のこまかな記録を取りご利用者個々にあった生活が提供できるように努めており、職員間で情報共有を行いご利用者個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の思いを汲み取り、介護計画の作成を行っている。ミーティング時やケース会議時に職員間で意見交換しながら全員で検討を行っている。	本人、家族の意向をくみとり、アセスメント(センター方式)から介護計画につなげている。又、入居時は3ヶ月程度、後は6ヶ月程度で計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をご利用者個々の生活記録に記入し、職員が情報を共有できるようにしている。情報をもとにケース会議で話し合い介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人にとって必要とされる支援を工夫し柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状感染対策で制限しているが、中学生のボランティア等の受け入れや、また近所のお店屋さんと一緒に買い物に出かけたりしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医を受診して頂き、状態に応じ相談しながら適切な医院を受診している。	受診は本人、家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医を継続される方もいらっしゃる。専門医の受診等の支援等も積極的になされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護師と連携し、ご利用者の状態の変化に応じ相談しながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者に、日々の状況等をご家族に相談しながら情報提供を行っている。入院先とこまめに連絡を取り、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての説明を十分に行っている。重度化した場合や医療が必要になってきたときは、早い段階でご家族と医師に相談し事業所での最大限の対応ができるよう取り組んでいる。	入居時等の早い段階から、重度化した場合の対応について説明を行っている。主治医とも相談しながら、事業所として、出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンライン研修で急変時の対応等の理解を深め対応できるように取り組んでいる。また日々の業務の中でも職員間で起こりえることを想定し話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染対策の為、消防の立ち合いや地域消防団の立ち合いは中止となっているが、事業所内で火災時の訓練を行っている。	火災訓練は日中、夜間の想定で年2回行っている。津波、水害の可能性は低く、以前、停電したときは系列の施設に協力を求めることができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々ご利用者の立場になって、個々の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し、ミーティング時等で職員間で情報共有を行い、全体でプライバシーの確保に努めている。	一人ひとりの人格を尊重した接し方を、日々職員間で話し合っており、その人その人のペースを大切にすることを共有している。接遇の研修も年2回行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の何気ない会話の中から食べたい物ややりたいことを聞き取りご利用者個々の意思に沿って支援できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースの把握を行い、職員側の都合を優先せず、できるかぎり一人ひとりの希望に合わせ、その人らしい生活ができるよう支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの能力に合わせ、自己決定できる方には好みのおしゃれが支援し、できない方に対しては一緒に選んだり工夫し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせ、調理、食事の盛り付け等を職員と一緒にやっている。また季節の食材を取り入れ食事を楽しめるよう取り組んでいる。	利用者にも、簡単な調理や盛り付け等も参加してもらい、できることは共に行っている。利用者の希望のたこ焼きやベビーカステラを手作りおやつに取り入れることもある。又、入れ物を工夫し、松花堂弁当にして楽しむこともあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士に食事内容をチェックしてもらいアドバイスを受けている。また一人ひとりの食事量を記録し、1日を通して必要な食事量、必要な方は水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に一人ひとりの状態に合わせて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方に対してはトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し排泄パターンを把握し、その結果、排泄の自立につながられた方もいる。きめ細やかな対応をすることが自立に向けた支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、食材での工夫、乳製品の取り入れ、また運動不足にも注意している。主治医に相談し便秘薬での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り毎日入浴して頂ける環境を作り、一人ひとりの体調、希望に応じて入浴できるよう取り組んでいる。	お風呂は毎日沸かしており、希望があればいつでも入浴できる体制を整えている。拒否傾向の方にも、声掛けを工夫したり、入るタイミングを考慮しながらお誘いしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、日中も休んで頂いたり、就寝時間も個々に合わせて休んで頂けるよう取り組んでいる。夜間寝付けない方に対して安心して頂ける関りに心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、通院ノート、服薬表に記入し変更があれば申し送りを行い、職員間で共有できるようにしている。状態に変化があった場合はご家族、かかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、生活の中でできることをして頂き力が発揮できるよう支援している。一人ひとりの趣味や楽しみを把握し楽しみのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染状況に応じ、お庭への賛否や職員とのドライブを楽しんで頂いている。コロナ禍前はご家族の協力のもと遠方の馴染みの場所にでかけたりもされていた。	以前は、家族の協力もあり、遠方に出かけることもあった。馴染みの場所に出かけたり、秋の遠足、外食も楽しんでた。現在は、ドライブ中心の外出支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は基本的には預からず、立て替えさせて頂き利用料と一緒に請求させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話を自由にして頂いたり、お手紙での支援もさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者に聞きながら、室温、明るさ、テレビの音量を調整させて頂いている。安全面にも配慮し、一人ひとりが居心地の良い空間づくりになるよう努めている。	利用者同士の関係性に配慮しながら、居心地のよい空間となるよう工夫されている。みんなで作った作品や、個人の作品を掲示している。職員とともに、ごみ集めやモップかけをすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを配置し、好みの場所で過ごして頂けるよう工夫している。気の合った方同士が過ごせるよう席の配置も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具を持ち込んで頂いたり、居心地よく安心して過ごして頂ける居室作りに取り組んでいる。	使い慣れた家具、布団、クッションなど好みの物をお部屋で使用されている。また、お部屋で編み物をされる方もいる。利用者が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差をなくし、手すりを取り付けており、居室やトイレ、浴室がわかりやすいよう表示し、ご利用者が自立して過ごせるよう工夫している。		